

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			0..*	Coding		表現したいコンセプトのコード記述。 繰り返しにより複数のコード体系によるコーディングで記述できる。
n.1.1			system		1..1	uri	“http:.....”	コード体系。
n.1.2			code		1..1	code	“B0EF”	コード。
n.1.3			display		0..1	string	“持続腹痛”	コード体系におけるコードに対応するの表示名
n.2		text			0..1	string	“長く続く腹部の痛み”	表現したいコンセプトのテキスト記述

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。値の欄は、4 つの行(子要素)に使う値を列挙するが、省略することもある。多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 0..*	CodeableConcept	“http:.....” “00” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	---	----

なお、coding の多重度の最小値が 0 (すなわち省略可能) の場合には、コードによる記述をせず、以下のようにテキストだけで記述することも許されている。

表 DiagnosticReport リソース 診断報告書情報

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
1	resourceType						“DiagnosticReport”	D iagnostics R eports リソースであることを示す
2	text				0..1	Narrative		本リソースをテキストで表現したものを入れてもよい。
2.1		status			1..1	code	“generated”	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
2.2		div			1..1	xhtml	<div xmlns=“http://www.w3.org/1999/xhtml”>xxx</div>	値は例示。
3	identifier				0..1	Identifier		この検査レポート情報に付番された ID

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
3.1		system			1..1		"urn:oid:..."	付番方法については「識別子名前空間一覧」を参照。値は例示。
3.2		value			1..1		"2020-10-002933"	検査レポート情報 ID の文字列。値は例示。
3	status				1..1	code	"final"	<p>検査・観察のステータス。</p> <p>コード表: "http://hl7.org/fhir/diagnostic-report-status" registered: 登録済・参照不可 partial: 部分的に報告 preliminary: 暫定報告 final: 最終報告 amended: 修正版 corrected: 訂正版 appended: 承認済み cancelled: 取消し entered-in-error: エラー unknown: 不明、</p>
	category				0..1	CodeableConcept	"http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v2-0074" "CTH"	<p>診断サービスの種類区分。</p> <p>【コード表: 別表】 http://hl7.org/fhir/valueset-diagnostic-service-sections.html</p>
	code				1..1	CodeableConcept	"http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/DocumentType"	検査・診断レポートの名称とコード。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重 度	型	値	説明
								【コード表:別表】 SS-MIX2 文書コード表のうち報告書のカテゴリ部分を使用する。 コード表に該当しない場合、テキスト記述だけでもよい。
11	subject				1..1	Reference		患者を表す Patient リソースへの参照。
	encounter				0..1	Reference(Encounter)		検査・観察が実施された受診情報（外来受診情報または入院詳細情報）
	(effective)							このレポートの対象となった検査・診断が実施された時期。 4 通りのいずれかの子要素 (effectiveDateTime、effectivePeriod) のひとつを選択して、それにより記述する。複数を選択はできない。effective 要素は記述しないで、直接 effectiveDateTime 要素のレベルを記述する。
		effectiveDateTime			0..1	dateTime		日時
		effectivePeriod			0..1	Period		期間
			start		0..1	dateTime		開始日時
			end		0..1	dateTime		終了日時

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	performer				0..1	Reference(Practitioner PractitionerRole Organization)		このレポート診断内容に責任をもつ者。
	resultsInterpreter				0..*	Reference(Practitioner PractitionerRole)		主たるレポート作成者(検査結果判断者)
	interpretation				0..1	CodeableConcept	“http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v3-ObservationInterpretation” “H”	検査結果値の評価コード。 基準値より High など。
	specimen				0..*	Reference(Specimen)		この検査の検体・対象情報
	result				0..*	Reference(Observation)		検査の場合の検査結果情報への参照。
	imagingStudy				0..*	Reference(ImagingStudy)		画像検査の場合の実施情報への参照。
	media				0..*	BackboneElement		このレポートに関連するキー画像。
		component			0..*	string		キー画像に対するコメント(説明)記述。
		link			1..1	Reference(Media)		画像ソース情報への参照
	conclusion				0..1	string		臨床診断(解釈)の叙述的な記述。
	conclusionCode				0..*	CodeableConcept	“urn:oid:1.2.392.200119.4.101.6”	臨床診断(解釈)、所見のコード表現。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多 重 度	型	値	説明
							“E48A” “胃癌”	system 値は MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードを使用する場合の例示。” E48A”は、MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードで“胃癌”のコード。
	presentation Form				0..*	Attachment		診断レポートそのもののデータを添付情報として格納する。
		contentType			0..*	code		データの Mime type コード。
		data			0..*	base64Binary		データを埋め込む場合、base64 形式でここに埋め込む。 データを埋め込まず、次の要素 url で参照する方式でもよい。
		url			0..*	url		データを取得できる URL
		title			0..*	string		診断レポート添付情報のタイトル